

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ななほ			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 10日		～	2025年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 10日		～	2025年 3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、業務の質と効率の向上を図るために「デイロボ」や「Comii」のAI機能を積極的に活用しています。これにより、日々の支援記録や業務管理が自動化・効率化され、職員が子どもたち一人ひとりと向き合う時間を確保しやすくなっています。また、AIによるデータ分析を通じて、支援の振り返りや課題の見える化が可能となり、より質の高い支援や業務改善に繋がっています。このような先進的なツールの導入は、職員の負担軽減と支援の精度向上の両立を実現しており、当事業所の大きな強みの一つです。	「デイロボ」を活用し、日々の記録をデータベース化することで、職員間での情報共有をスムーズにし、支援のばらつきを防いでいます。また、「Comii」のAI分析機能を使って、子どもたちの変化や傾向を可視化し、支援方針の見直しに活用するなど、日々の支援に根ざした改善を行っています。これらの取り組みにより、職員一人ひとりが根拠ある支援を実践できる体制づくりを意識的に進めています。	今後は、AIツールによって蓄積されたデータをより深く活用し、個別支援計画や職員間のケース検討に役立てていく予定です。また、ICTツールの活用方法について定期的に職員間で共有し、使い方の標準化やスキルの底上げを図ることで、より一層の業務効率化と支援の質の向上を目指します。さらに、保護者へのフィードバックにもAIによる記録を活かし、支援内容を“見える化”することで、信頼関係の強化と連携の質向上にもつなげていきます。
2	「すてむぼっくす」の教材を活用し、厚生労働省が定める5領域（健康・生活・運動・認知・言語・人間関係）に基づいた療育をバランスよく実施しています。専門的に構成された教材を取り入れることで、子どもたちが楽しみながら自然と多角的な力を伸ばせるよう工夫されています。また、視覚的・体験的に理解を深められる教材内容は、発達段階に応じた支援を可能にし、個別の特性に合わせた療育の質を高める要素となっています。こうした体系的な療育を日々の活動に取り入れている点は、当事業所の大きな強みといえます。	すてむぼっくすの教材を活用する際は、単に与えるのではなく、子どもの発達段階や興味関心に応じて内容や難易度を調整するよう工夫しています。たとえば、同じ教材でも年齢や発達に応じて提示の仕方や支援方法を変えることで、成功体験に繋がりがやすくなり、意欲的な参加を促しています。また、5領域それぞれの発達目標に意識的にアプローチできるよう、活動前後にねらいや振り返りを職員間で共有し、教材を活かした療育が形だけのものにならないよう努めています。さらに、活動を通じて得られた子どもの反応や成長を記録し、次の支援に繋げていくサイクルを大切にしています。	今後は、すてむぼっくすの教材をより効果的に活用できるよう、5領域の療育内容と日々の活動計画との関連性をさらに明確にし、職員全体で共通理解を深めていく予定です。また、子ども一人ひとりの興味や発達段階に合わせて教材の組み合わせや活用方法を工夫することで、個別支援の質の向上を目指します。さらに、活動の様子や子どもの反応を継続的に記録・分析し、療育効果を“見える化”する取り組みを進め、支援内容の振り返りや保護者との共有にも積極的に活かしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域への周知を目的として、近隣の保育園・小学校・支援機関への訪問やパンフレット配布を継続的にを行っています。また、施設内での見学会や個別相談の機会を積極的に設け、地域の方々に事業所の雰囲気や支援内容を直接見ていただけるよう工夫しています。さらに、SNSやホームページなどの情報発信ツールも活用し、施設の取り組みや子どもたちの活動の様子を発信することで、認知度向上を意識的に図っています。	開所からの期間が短く、地域に根差した信頼関係の構築や広報活動がまだ十分に行き渡っていないことが一因と考えています。また、療育や福祉サービスに対する理解が地域によって差があることや、保護者が情報を得る手段が限られていることも、認知の広がりに影響していると感じています。さらに、職員が日々の支援業務に注力している中で、広報や外部との連携活動に十分なリソースを割けていないことも要因の一つです。	地域への認知度を高めるためには、今後も継続的かつ計画的な広報活動が必要です。具体的には、地域の子育て支援センターや医療・教育機関との連携を強化し、紹介や相談の機会を増やしていくことが重要だと考えています。また、SNSやホームページでの情報発信を定期化し、事業所の日常的な取り組みや支援内容を可視化する工夫も進めていきます。さらに、地域イベントへの参加や事業所主催のミニイベントを開催することで、地域の方々と直接交流できる機会を増やし、信頼関係の構築に繋がっていきたいと考えています。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ななほ

公表日 令和 7 年 4 月 1 日

利用児童数 令和 7 年 4 月 1 日 3回収数

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3					
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		3				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	3					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	3					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	29	事業所の支援に満足していますか。	3					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和 7 年 4 月 1 日			
児童発達支援・放課後等デイサービス ななほ					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		できるだけ、机の配置などを考えてスペースを確保しています。	机など使用していない時には、できるだけ壁に寄せてスペースを作ります。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	2	2		職員の配置数は基準を満たしており適切であると判断されます。一方で、支援の質をさらに高めていくためには、職員一人ひとりのスキル向上が必要であると考えられます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	当施設では、PDCAサイクルを活用し、業務改善に向けた取り組みを行っています。特に、職員同士で毎日の振り返りを行うことで、日々の業務の中で気づいた点や改善点を共有し、全員が積極的に意見を出し合っています。このプロセスを通じて、職員一人ひとりが業務改善の一翼を担っている実感を持ち、組織全体の成長に貢献しています。	PDCAサイクルの活用できるように一人一人に伝えていきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	保護者の皆様のご意見を大切にしております。送迎時などに保護者からの要望を丁寧にお伺いし、その内容を業務改善に活かしています。これにより、保護者の皆様の期待に応えられるよう努めております。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	職員の意見をしっかりと把握するために、日々の朝礼や夕礼の時間を活用しています。これらの場で職員と話し合い、業務改善のための具体的な改善点を決定しています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		4	職員の資質向上を図るために、研修を実施する機会は設けられています。法人内で定期的に研修を開催し、職員が最新の知識や技術を学べるようサポートしています。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	2	チームでの活動プログラム立案において、オンラインツールを活用し、職員全員が意見を出し合いやすい環境を整えています。これにより、効率的かつ効果的にプログラムを立案し、職員全員が積極的に参加できるよう努めております。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		4		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。				
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		年に2回避難訓練を実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		アレルギーなど聞き取りし、医師の指示書を持っている児童がいないです。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止に向けた取り組みとして、定期的な内部研修だけでなく、外部の専門研修にも積極的に参加できるようにしています。また、職員同士で事例を共有し、グループディスカッションを行うことで、現場に即した具体的な対応力の向上を図るなど、実践に繋がる工夫を取り入れています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		対象児童がいないです。	